



香川県立文書館の活動一年

平成6年3月28日に不安と注目の中、無事開館にこぎつけ、ほっとする間もなくはや一年の月日が過ぎ去りました。香川県立文書館は、建物が図書館との併設で地上3階建、延床面積4557m²の規模で、職員は開館時には、正規職員7名嘱託職員8名日々雇用職員8名計23名でスタートしました。業務は、公文書、古文書、行政資料、県政情報の提供及び複合施設である図書館・文書館の建物等の管理であります。

振り返ってみると、この1年間当初は新しい施設であることや図書館、産業交流センターなど香川インテリジェントパーク内の他の施設からの波及効果から見学者が多数つめかけ案内に追われる多忙な毎日でした。広報事業では、開館記念展示として、「香川県における修史事業と文書館」そして記念講演会として、金田一春彦先生による「日本語はこんなにおもしろい」を実施し好評を得たところであります。夏には公文書の企画展示で「戦前文書にみるかがわの農業」に取組み、また古文書解読講座の入門編を初めて行う計画が異常渴水による給水制限のため夏の冷房を一ヶ月間、停止したことから2ヶ月延期の事態になってしまいました。しかし、文書庫は冷房設備が空冷式でしたので難を逃れました。秋には香川大学の木原溥幸先生による歴史講演会「高松城と近世社会」や企画展示「庄屋の役割」を、3月には古文書解読講座の応用編を行い文書館の広報を積極的に行ってきました。

また文書館の機能の充実等を図るため運営協議会を設立いたしました。さらに公文書の閲覧、非閲覧を協議する公文書利用協議会を発足させるとともに文書等の所在情報の提供、所在調査の協力等を行う資料調査委員会も設置いたしました。

この一年間は体制整備の年であり試行錯誤の年でもありました。2年目は中身の濃い充実した文書館にすべく飛躍発展の年にしたいと考えております。全国の仲間の方々の温かいご支援ご指導をお願いいたします。

石川久男・香川県立文書館